



小金井市 農業委員会だより

小金井市イメージキャラクター
こきんちゃん



平成25年1月
第3号
小金井市農業委員会
小金井市本町 6-6-3
TEL:042-387-9882
FAX:042-386-2609
＜発行協力＞
農業経営者クラブ

第63回小金井市農業祭が開催

11月10日（土）、11日（日）に第63回小金井市農業祭が開催されました。農業祭の会場は、平成23年度に第一小学校からJR武蔵小金井駅南側のフェスティバルコートと市民交流センターに移りました。駅前に移り、新たな企画も始めたことにより、今までよりも多くの市民の皆様にご来場していただけるようになりました。



植木の会場（フェスティバルコート）



物産の会場（市民交流センター）



南口駅前の即売のコーナー



商工会の出店

今回は、南口駅前の歩道上にもテントを張り、秋の黄金井（こがねどん）フェアを宣伝する「江戸東京野菜コーナー」、被災地のJAを支援する「JA仙台・JAいわて花巻の販売コーナー」、「地元農産物の販売コーナー」を設けました。復興支援として、JA仙台・JAいわて花巻テントでお買いものした人の先着400人には、小金井産のキウイフルーツをプレゼントしました。

また、「もっと食べ物のお店を出して欲しい！」との要望に応えるため、商工会に依頼し、市内の飲食店2店舗（割烹・真澄さん、新小金井亀屋さん）に出店していただき、チヂミ、今川焼、チョコバナナ、焼きそばなどの販売をしました。広場には休憩場所を設けたので、食事をしながら植木や宝船を眺める家族連れの方々が多くいらっしゃいました。

品評会の出品点数

今年の総出品点数は1, 287点でした。昨年は1, 252点だったので、35点の増となりました。春先に寒気の影響で雹（ひょう）が降り、7月末から8月いっぱいまで降雨が無いなど不順な天候が続き、物産には厳しい環境でした。植木については、一般木が55点も増え、全体の出品数を押し上げる結果となりました。



物産の部		植木の部		立毛の部	
平成 24 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 23 年度
854 点	877 点	一般木 303 点 盆栽 28 点 寄せ植え 44 点	一般木 248 点 盆栽 21 点 寄せ植え 45 点	夏野菜(ハウス) 16 点 夏野菜(露地) 18 点 秋野菜・ウド 19 点 小規模(夏・秋) 5 点	夏野菜(ハウス) 18 点 夏野菜(露地) 16 点 秋野菜・ウド 18 点 小規模(夏・秋) 9 点
		合計 375 点	合計 314 点	合計 58 点	合計 61 点

出品点数の内訳

特別賞受賞者

特別賞の都知事賞と市長賞については、次の方が受賞されました。おめでとうございます。表彰式は12月13日（木）に行われます。

物産の部	東京都知事賞	梶野町支部	千本木敏雄さん	(ナス)
	小金井市長賞	前原町支部	鈴木 功 さん	(ダイコン)
植木の部	東京都知事賞	貫井坂下支部	鈴木 光二さん	(ブンゲンスファットアルバータ)
	小金井市長賞	梶野町支部	高橋 正彦さん	(常緑ヤマボウシ)
立毛の部	小金井市長賞	東部支部	阪本 文夫さん	(ハクサイ)

都知事賞と市長賞の受賞者



宝船の様子



ピンクの衣装で揃えた JA 女性部の皆さん

農業経営者クラブと視察を実施

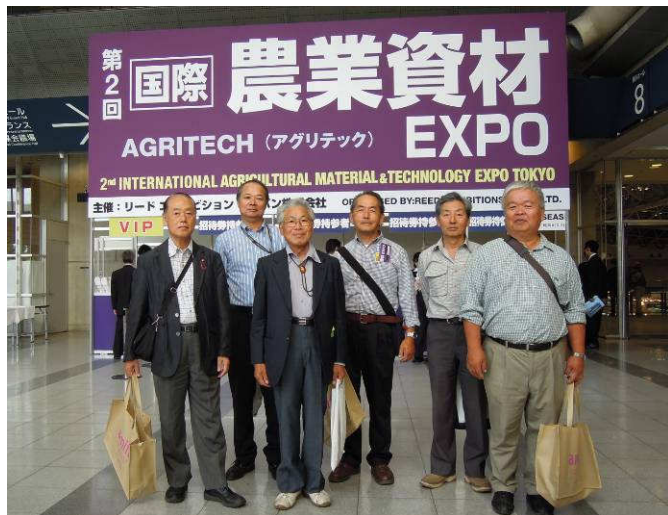
農業委員会と農業経営者クラブ合同で、10月11日（木）に幕張メッセで「国際農業資材EXPO」の視察を行いました。会場では1,000社を超えるブースが出店されており、広さは東京ドームの2.3倍、1日ではとても全て見る事ができないくらいの規模でした。ブースは多岐にわたり、農業資材、工具、作業用品、ガーデニング、花卉などに関する様々な先進技術を見学することができました。

参加者の皆さんは、「数が多いので、目的のブースを重点的に回ろう！」とあらかじめ調べてきた資料をもとに、とても意欲的に見学されていました。

農業経営者クラブでは、毎年農業に役立つ視察を行っています。クラブ会員の皆様は是非ご出席ください。



会場の様子



参加者の皆さん

小学生のイモ掘り体験

毎年、市内の公立小学校9校の小学生を対象として、ジャガイモとサツマイモのイモ掘りを行っています。多くの小学生はとても喜んでイモ掘りをしますが、中には「ミミズがこわい」「土を触れない」という子どもたちもいます。

誰でもできた「土を触るという」行為が、今の子どもたちにとっては、とても貴重な体験となっています。農業委員会としては、これからも少しでも多くの子どもたちに土とふれあってもらいたいと考えています。

平成24年度は、1,581人の子どもたちにイモ掘りを体験してもらいました。ひとり2株ですが、小学1年生には掘るのも、持って帰るのも大変そうでしたが、みんな最高の笑顔で帰っていきました。



サツマイモ掘り（第四小学校）



ジャガイモ掘り（第三小学校）

農家見学会を開催しました

農業経営者クラブ、都市農政推進協議会、農業委員会等で農家見学会を10月13日に開催しました。毎年、マイクロバスで移動していましたが、今年は市民の参加者の皆さんと秋晴れの中を歩いて農家を巡る「農ウォーク」方式で開催しました。

1 軒目 中町 キウイフルーツ栽培 渡邊勇さん 渡邊雅毅さん



キウイの栽培のお話を聞かせてくれた雅毅さん

1 軒目は渡邊勇さん・雅毅さんのキウイフルーツ畑を見学しました。普段は門がしまっていて畑が見えなかったのですが、門の奥に大きなキウイフルーツ畑が広がっていて、参加者の皆さんはとても感動していました。

キウイの栽培のお話を伺って、ブルーベリーの試食とキウイで作った果樹酒の試飲までさせていただきました。果樹酒はキウイのまろや



ブルーベリーと果樹酒の試飲

かな甘みがよく引き立っていて、とてもさわやかな風味を感じました。

色々なお話を伺いましたが、参加者の皆さんは「三十年以上前に日本に入ってきたキウイをいち早く栽培したこと」「数えきれないキウイをひとつひとつ手で受粉させること」「キウイのお酒の試飲ができたこと」などが特に印象に残ったとのことでした。

2 軒目 中町 シクラメン栽培 鴨下雅一さん



シクラメン栽培のお話を伺う様子



ガラスハウスの中はシクラメンでいっぱい

2 軒目は鴨下雅一さんのシクラメン栽培を見学しました。シクラメンは、ガラスハウスの中で栽培され、土づくりもとてもこだわりを持って行っていました。時期になるとハウスで直売も行い、参加者の中にも購入したことがある人が何人かいました。

鴨下雅一さんは、農業経営者クラブの副会長

をされているので、今回の見学会と一緒に歩いて参加していただきました。はけのみちを歩く道中、その場所での小金井の歴史や出来事をたくさんお話していただきました。参加者の感想文には、「鴨下さんの移動中にお話ししてくれた小金井の昔話が一番面白かった！」との意見もあり大好評でした。

3 軒目 中町 少量多品種の野菜栽培 鴨下涼子さん



サトイモの掘り方を教える涼子さん

最後は鴨下涼子さんの野菜畑を見学しました。量は少ないながらも、野菜からブルーベリーまで、様々なものを栽培していました。ここでは、サトイモとラッカセイの収穫体験をさせてもらいました。サトイモの収穫は、とても珍しく初体験だと言う人がほとんどでした。最初は手で土を掘ったり、茎を持って抜こうとしたりしましたが、大きなサトイモはしっかりと根



ラッカセイの豆のでき方と掘り方の説明

を張り、びくともしません。鴨下さんがスコップをもってきて手伝ってくれ、なんとかみんな掘ることができました。ラッカセイは、掘った後、丁寧に豆を集め袋に入れました。取れたてを塩ゆでで食べるのがお勧めだそうです。参加者はサトイモの収穫が珍しく、興味をひかれた様子でした。また、サトイモの茎でズイキの作り方も教わり、茎もお土産に持って帰りました。

参加者の感想文

後日、参加者の皆様から、感想文を頂きました。ここで一部を紹介します。

- ・「50年小金井に住んでいますが、新たな発見がたくさんありました」（桜町女性）
- ・「農家の話を初めて聞きました。長年苦労してこの土地の利点を生かした農業をされていると感じました」（緑町女性）
- ・「日本の農業を世界に並ぶものにして欲しいと感じました」（貫井南町女性）
- ・「来年も是非参加したい」（貫井北町女性）

キウイの果樹酒の作り方

～渡邊さんに教えてもらったレシピを紹介～

【材料】小玉キウイ 1.5kg～2kg、氷砂糖 300g、好みによりレモン半分、ホワイトリカー1.8L

- ①キウイを良く水洗いして乾かす(毛が気になる場合は流水にあてスポンジなどで軽くこする)
- ②広口ビンにキウイと氷砂糖を入れ、ホワイトリカーを注ぐ(酸味が好きな方はレモンの皮をむき輪切りにして入れ、2～3日で取り出す)
- ③キウイが約30日位でしぼんで浮き上がってきたら引き上げる

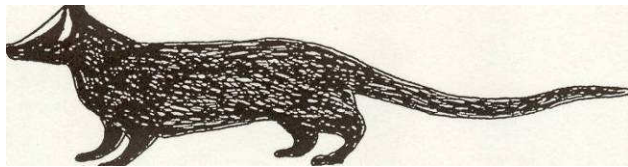
ハクビシンの対策について

近年、市内でもハクビシンによる被害の報告がなされています。ハクビシンの生態と対策の例をお知らせします。

特徴と生態

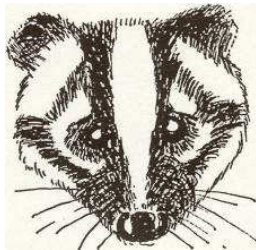
種類は食肉目、ジャコウネコ科。主な生息場所は中国西部から東南アジア、スマトラ、ボルネオ、台湾。日本では1940年前後から生息記録があり、外来生物と考えられる。何のために持ち込まれたかは不明である。不連続ながらも、北海道から九州まで分布、近年都心でも確認される。

体は、頭胴長：55～74cm、体重2～5kg程度で、しっぽが長く足が短い。



全体図

顔は鼻筋に白い帯があり（白鼻芯の由来）、眼の下と頬に白い斑点が目立つ。指は5本。



顔と足



生態は、夜行性、木登りが得意でネットやポールも登る。一本の針金を登り、渡ることもできる。高さ1m、幅1.2mはジャンプできる。巣は作らず、樹木の穴や人家の天井裏をねぐらとする。



主に果実類を食べるが、昆虫類や小型哺乳類も食べる雑食性である。特にブドウ（左写真）、モモ、カキ等を好むが、トウモロコシ、イチゴ、トマト、スイカ等にも被害が出ている。

被害対策

推奨される基本的な対策は、ハクビシンの進入を完全に防ぐネットハウスのようなものが理想的ですが、食害の額に比べて膨大な投資となり、現実的ではない。捕獲も労力が大きく、捕獲後必ずしも被害が減るわけではない。

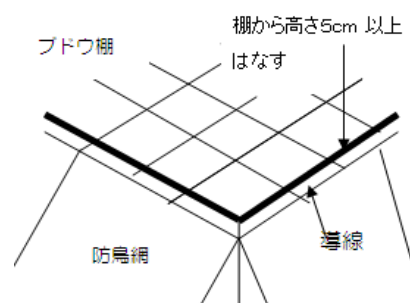
<1. 農園及び周辺環境管理>

(1)侵入の防止：破れたネットやフェンスは修理する、(2)周辺の管理：藪や茂った木の枝を整理し安心して移動する環境を無くす、(3)誘引物の管理：餌場とならないよう取り残しの果樹を除去し、堆肥場には蓋をつける、(4)ねぐらの除去：納屋などがねぐらにならないよう管理、(5)見回り巡回：果実の糖度が上がってきたら、夜中や明け方に見回りを行う。ハクビシンは夜行性であり、ヒトを警戒する動物なので、夜間の見回りはヒトの気配をさせるという意味で、毎日でなくても効果的である。

<2. 具体的防御>

①ブドウ棚上に電気柵を設置する方法

ハクビシンはバランス感覚が優れているので、低い進入防止柵やネット柵ではあまり効果が無い。臭い・音・光での対策も一時的には効果がみられるが、時間と共に効果は減少する。埼玉県では、ブドウ棚の上に電気柵を設置する方法を紹介している。防風ネットを登ってくるハクビシンに対して、電気ショックを与えて侵入を防止する。ただし、ブドウの新梢が伸びてきて導線に触れると漏電するので、こまめな管理が必要である。



②ブドウ棚外に電気柵を設置する方法

東京都では電気柵を地上に設置する方法を推奨している。ただし、この方法は、住民（特に幼児や子供）の安全のためには夜間だけ電気が流れるシステムにする。

- (1)クリップを2～4個（電線の数だけ）ポールに取り付ける
- (2)ポールをブドウの防風網の外側20～30cmに、2.5～3m間隔で地上部に挿す
- (3)1段目の電線の高さを15～20cm、2段目を30～40cmにセットする。鼻が敏感なため、1段目は鼻に触れる高さにする
- (4)農園に入れるようにドアを作り入口を確保
- (5)アースをつけ、電源を入れセットする
- (6)電池、機器部分の防水を施す



4段で設置した例

③ブドウ棚にイヌの毛を設置する方法

臭いによる物は恒久的な対策とはならないが、神奈川県農業技術センターではブドウの成熟期にこの方法で成果を出している。

- (1)着色期（8月上旬）にイヌの毛10gずつネットに包み、棚の支柱及びブドウの主幹に、1mの高さで設置
- (2)成熟期（9月中旬）まで忌避効果が持続するので、イヌの毛の交換は不要



主幹に設置



支柱に設置

親子で収穫体験

農業委員会と農業経営者クラブでは、親子で農業にふれあう機会として、「親子収穫体験」を行っています。今回は8月17日に梶野町の高杉隆行さんにナスの収穫体験をさせていただきました。当日は、雲ひとつないとても暑い日でしたが、親子24組63人が元気に参加しました。

収穫体験の前に、高杉さんからナスの栽培について、とても丁寧にお話をいただきました。炎天下で小さな子供も多かったですが、みんな汗を流しながらとても真剣にお話を聞いていました。

収穫体験は1家族10本のナスを収穫し、ナスの木の大きさに驚いている様子でした。



地元野菜で料理講習会

小金井産の野菜で美味しく健康的な料理を作っていただくため、農業経営者クラブ、市、JA女性部で夏、秋2回の料理講習会を行っています。

夏は7月4日に行い、「トマトとカボチャのスープ」、「豚肉のさっぱり焼き」、「ルバーブジャム」を作りました。



講習会の様子



夏のメニュー



秋のメニュー

秋は12月7日に、「豆腐のドライカレー」と「カブのスープ」を作りました。カブのスープはミルク仕立てなので、「カブの新しい食べ方を発見できた」とのことでした。

生産緑地の追加指定

今回は貫井南町の約3,000㎡の農地が生産緑地として追加される見込みとなりました。一団で500㎡以上の宅地化農地を持っていて、生産緑地に追加をご検討の方は農業委員会までご相談下さい。

今は転用した農地、生産緑地から一度外した農地は追加指定できないこととなっていますが、農業委員会としては、これらの要件を撤廃するよう市に要望しています。

次の追加については、また平成25年度にお知らせします。

夏の農地パトロールを実施

農業委員会では、8月20日から10月31日までを農地管理推進月間として、農地パトロールを行っています。主に、相続税納税猶予農地と生産緑地を中心にパトロールを行っています。

相続税納税猶予農地では、農業経営を廃止したり農地転用をしたりすると、猶予されていた相続税とそれに伴う利子税の支払いをしなければなりません。また、まれにですが、市民の方から「何も作っていない農地でも税金が優遇されるのはおかしい」との意見を頂くこともあります。そのような場合は、意見を頂いた方に農地制度や農地の大切さを十分にお話ししますが、まずは農家の皆様に農地を適正に使っていただくことがとても大切です。農業委員会から畑の管理についてお願いをすることもありますが、ご対応をお願いします。

農業者年金に入ろう！

農業者年金に支払う保険料は全額（最高年額80万4千円）社会保険料控除の対象となり、所得税、住民税の節税になります。民間の個人年金の所得税の控除額は年間4万円が上限なので、とてもお得な制度です。

まだ未加入の方は、是非ご検討ください。

加入資格は次の①～③の全ての条件を満たす方です。①国民年金第1号被保険者、②農業に年間60日以上従事する農家の方、③20歳以上60歳未満

お申込みは農業委員又は農業委員会事務局（387-9882）まで。

全国農業新聞を購読しませんか

農政の動きや農業経営に役立つ情報誌です。全国の元気で明るい話題や地域独自のイベントなど、ご家族でお楽しみいただけます。

発行日：毎週金曜日

購読料：月600円

お申込みは農業委員又は農業委員会事務局（387-9882）まで。

～編集後記～

今年は春先の台風から始まり、夏には雨が降らない等、厳しい気象条件でした。都市農業では、このような気象の問題以外にも、地域住民との関係、税金、農地の規模拡大ができないなど様々な問題と付き合っていかなければなりません。しかし、市民アンケートによると90%前後の人が農地の保全を望んでいます。農業委員会としては、少しでも農業者に「農業をや

りやすい環境作りのお手伝い」ができればと考えています。

農業委員会会長

鈴木義平

